

兵庫県議員 内藤 兵衛

県政NEWS No.35 2021.1



一日生涯

「一日生涯」は、内藤兵衛議員の座右の銘です。今日の一日を生涯と心得て、全力を出し切るという思いを込めています。

ポストコロナの兵庫づくりに挑む

2021年令和3年の新しい年がスタートしました。しかし、新型コロナウイルスの感染収束への兆しがみえない状況が続いていまます。兵庫県内で昨年3月1日に初めて新型コロナウイルス陽性者が確認されて以降2カ月間、県議会最大会派の自民党議員団幹事長として県庁に在任した状態となり、連日、県当局との交渉、議員への連絡等でまさに忙殺状態でした。4月10日には県議会として新型コロナウイルス対策調整会議を設置し、県当局と一体となつて迅速かつ的確に対応できるような取り組みを進めました。



現場の声を要望書にまとめ 井戸知事に提出

議員活動も大きな制約を受ける中、医療現場や商店など広く情報収集した現場の声を施策に反映させるため、機会あるごとに政策提言、申し入れを県当局に対して行っています。また、県は感染のフェーズに対応した機動的な予算編成を行ってまいりました。これまで8回にわたり編成、効果を早期に発現すべく定例議会だけでなく臨時議会を招集し審議・可決。医療・検査体制の強化や、生活の安定化と経済活動の回復に向けた取り組みを着実に進めています。他府県との整合・適応数値の問題など議会提案で改善するなど行政と議会が協力することによって、より大きな成果が得られたと思っています。5月8日に幹事長の任期を満了しましたが、引き続き、今年度は自民党兵庫県連の政調会長として、コロナ対策をはじめとした諸課題に取り組みんでいます。

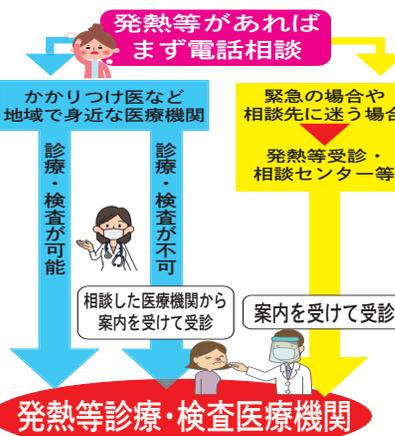
現場の声を政策提言、補正予算編成

第1波の感染拡大期には、さらなる感染症対策を講じるため、議会としてどのようなことができるのか、この声が高まり、議会費を削減して1億円を捻出、医療関係費に充てることで全議員が合意。結果、感染病棟を消毒するロボットが県立病院で導入されました。また、県は感染のフェーズに対応した機動的な予算編成を行ってまいりました。これまで8回にわたり編成、効果を早期に発現すべく定例議会だけでなく臨時議会を招集し審議・可決。医療・検査体制の強化や、生活の安定化と経済活動の回復に向けた取り組みを着実に進めています。

新型コロナと闘い！ 地方の時代を築く

進めています。しかし、なお今も新型コロナとの闘いは続いていまます。兵庫県においても「緊急事態宣言」が再発令されました。心ひとつに感染防止対策を一層徹底することが必要で

発熱等の症状のある方の相談・受診・検査の流れ



○新型コロナウイルス健康相談コールセンター ☎078-362-9980 24時間受付(土日祝日含む)
○加東健康福祉事務所(西脇市、多可町など) ☎0795-42-9436 平日9時00分～17時30分
※上記以外の平日夜間(17時30分～9時00分)及び土日祝日は、新型コロナ健康相談コールセンターへ

今年の干支は「丑」。丑年は「我慢」そして「変革、発展の前触れ」を表す年と言われます。ポストコロナの明るい兵庫の未来へ、大きなエネルギーと覚悟が必要ですが、我々は臆することなく突き進んでいかなければなりません。このような思いをもって第35回12月定例県議会一般質問に立ちました。概要を紹介していきますので一読頂ければ幸いです。

議員報酬など削減、消毒ロボット導入

さらに、今年には知事選挙の年であり、県政において大きな節目を迎える年です。12月の定例県議会一般質問で井戸知事が退任表明されました。

ポストコロナ社会、新しい時代を先導する兵庫県を築くには、若い新しいリーダーの元で、県政を活性化させなければなりません。変革期の中、春には西脇市の新庁舎が完成します。さらに道路ネットワークなど、地方の時代といわれるポストコロナ社会の基盤整備は着実に進んでいます。ふるさと西脇多可の強み、魅力を高め、地域創生を実現するため、県議会議員として将来像を示し、その原動力となる「人・現場力」を第一に本年も全力疾走する決意です。変わらぬご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

内藤 兵衛



兵庫の未来づくりに向けた財政運営

内藤 コロナ禍により大幅な税収減が見込まれる中、来年度当初予算編成は事業の「選択と集中」をさらに徹底し、それによって生み出した財源を投資事業や兵庫の未来づくりに向けた前向きな事業に投入すべき。そこで、県政推進の基盤となる今後の財政運営についての考え方は。

井戸知事 来年度予算編成では、スクラップ・アンド・ビルドをさらに徹底することとした。社会情勢や県民ニーズの変化、国・市町・民間との役割分担なども精査し、県民生活への影響についても見極めて行う。スクラップ・アンド・ビルドにより生み出された財源を、ポストコロナ社会を見据えた先駆的・先進的な施策や、防災・減災対策など県民生活が直面する喫緊の課題に対応する施策に重点的に投入する。

第352回12月定例県議会一般質問に登壇

地域創生戦略の展開

(1) ひょうごe-県民制度の取組状況と今後の展開

内藤 コロナ禍により、テレワークや二地域居住など新しいライフスタイルへの注目が高まっている。この機を捉えて、兵庫の地域創生の実現をしっかりと進めなければならない。そこで、本県にゆかりのある方や関心を持つ方にひょうごe-県民として登録していただく制度の、若者のニーズに沿った情報発信や、登録者個々の属性やニーズに合った情報をプッシュ型で発信することが必要。

井戸知事 9月には関西学院大学との連携により「関学版e-県民アプリ」の利用を開始、他の大学にも取組を広めていく。また、登録者ゆかりのデータを通知する機能を付加してプッシュ通知機能を持ったアプリを多可町と共同して開発している。

第352回12月定例県議会一般質問に登壇 ②



県議会本会議でも9月定例会から議場にアクリル板を設置

ポストコロナを勝ち抜く高速交通基盤整備

内藤 コロナ禍で地方回帰の流れが出現つつある中で、兵庫ならではの魅力を発揮し、ポストコロナ社会における地域創生を勝ち抜いていくためには、高速交通ネットワークの充実・強化が不可欠。厳しい財政だが、次の世代の夢と希望をつなぐための投資は、歯を食いしばってでも成し遂げなければならない。陸路では基幹道路八連携軸の未整備区間について、今後、どう取り組んでいくのか。

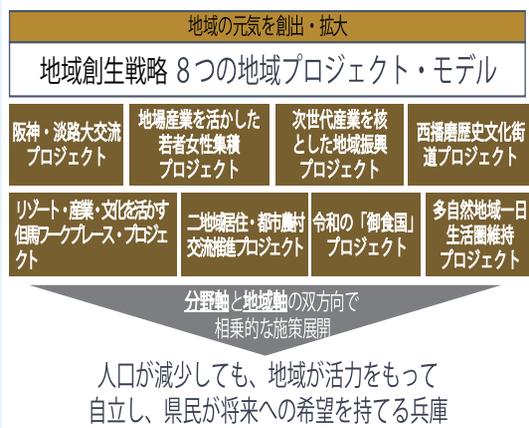
井戸知事 基幹道路八連携軸の未整備区間のうち、神戸・阪神、播磨のモノづくり拠点と物流拠点の連絡強化による更なる生産性の向上が必要。厳しいコロナの渦中にあっても、地域の将来像を見据え、経済回復の流れに乗り遅れることがないように、今すべきことを着実に進める。

地域創生戦略の展開

(2) 地域プロジェクト・モデルの取組

内藤 今年度からスタートした第二期地域創生戦略の中で、兵庫県の各地域の将来づくりとも言える8つの地域プロジェクト・モデルを、コロナ禍の今こそ着実に推進し、ふるさとの未来に期待が持てる社会をつくる必要がある。

井戸知事 北播磨では、「地場産業を活かした若者・女性集積プロジェクト」として地場産業を担う若手クリエイターの受入・育成に取り組んでいる。これまでに全国から24人の若者が集まった。他地域でも多様な地域資源を活かしたプロジェクトを推進し、地域の元気づくりと人口対策の双方に寄与する。



本県農林水産業の出口戦略

内藤 コロナ禍により「食の国内回帰」など、身近な食の大切さを見直す動きが見られた。このような状況を踏まえ、県として県産農林水産物の販路の開拓、需要の拡大に向けたブランド化など、県内、関西、全国を見据えたポストコロナの新たな出口戦略を積極的に展開すべき。

金澤副知事 製品ごとの特性にあわせてPRや販売促進方法の工夫が必要。消費者の購買行動につながるような取組で、販路開拓とブランド化を図る。

社会基盤整備の県単独事業予算

内藤 「令和2年7月豪雨災害」は九州地方を中心に甚大な被害が発生した。本県においても他人事として捉えず県民の安全・安心を第一に考え、更なる治水対策を検討すべき。そこで県民生活に密着して県土の隅々までいきわたり、県民誰もが必要性を実感している県単独事業について、通常事業と別枠事業の来年度の見通しは。

荒木副知事 厳しい財政状況だが、国の有利な財源措置を最大限に確保・活用し、社会基盤の適切な維持管理や老朽化対策、社会基盤整備に対する県民ニーズに的確に応えていく。

大伏ランプ



東播丹波連絡道路早期実現促進大会



広域道路ネットワーク形成 東播丹波道の早期完成めざす

12月定例県議会の一般質問で取り上げた「基幹道路八連携軸」は、2019年3月に策定した「ひょうご基幹道路ネットワーク整備基本計画」を基に、2050年までの完成をめざしています。八連携軸の中では、加東市～西脇市～丹波市を結ぶ東播丹波連絡道路（延長約30キロ）が位置づけられており、播磨地域と丹波地域の連携を強化し、山陽自動車道、中国自動車道、北近畿豊岡自動車道と一体となって広域道路ネットワークを形成します。完成すれば、交通安全の確保、渋滞緩和、緊急・災害対応力の迅速化、アクセス向上による地場産業など地域経済の発展、交流人口の拡大などの効果が期待されます。

昨年2月には同連絡道路の一部となる国道175号西脇北バイパスの寺内ランプから大伏ランプ間が開通しました。今後、黒田庄の畑瀬橋から以北の早期事業化が課題であり、昨年10月には早期実現促進大会を西脇市内で開催、県と地元市町が一体となって国へ強く求める決意を新たにしました。

加古川中流部の河川改修着々と

県は頻発化、激甚化する台風や大雨災害に備えるため県下各地の河川改修を段階的に進めてきました。災害を未然に防ぐ事前防災という考え方であり、今年度は大規模な河床掘削、堆積土砂撤去、樹木伐採が実施されています。

地元の加古川流域においても同様で、西脇市鹿野町、同黒田庄町前坂、同大垣内等において実施、今後も計画的に上流部に向けて河川改修を行っていき、治水安全度の向上をめざしています。

11月以降は杉原川、野間川においても同様に堆積土砂撤去等が行われています。

西脇市鹿野町 河床掘削



黒田庄町前坂 堆積土砂撤去

